

『天文月報表紙についての感想』

2008年の新年号から、月報の表紙に紙の多面体が載るようになりました。興味をもち、早速参考資料の「ゆかいな多面体」の本を求めてまいりました。この本と毎号の表紙を比べてみますと、同型同色のものはないようです。ということは編集部のだなたかが、手作りなさって表紙に掲載なさるのでしょか。私も指先を使って小物を作るのが好きで、(星印の少ない)簡単なものから作り始めていますが、多面体も2桁になると、制作途中であっちが外れ、こちらが弛むありさまで、なかなか大変です。編集部でお作りになっておられるのでしたら、そのご苦労話をいつかお書き願えないでしょうか。

100年記念号の付録も十分楽しめましたし、著者の顔写真が載るようになってたりで、最近の月報は新しい軌道を見つけつつあるように思われ、今後を期待しております。
加藤公子(神奈川県在住)

『ご感想ありがとうございます』

私の作成した立体をきっかけに創作活動が始まったということを知って、大変嬉しく思います。私もまだまだの腕前で、「ゆかいな多面体」のようにはなかなかきれいにできません。難しい立体の場合、1回は練習だと思って作成し、2回目を本番にすることもよくあります。

表紙デザインができるまでの簡単なフローを書きます。まず作成する立体を決め、季節にあった折紙を選びます。それを必要な枚数、必要な大きさに切断します。ああでもない、こうでもないと思戦苦闘しながらなんとか立体を完成させると、今度はそれを撮影します。撮影したデータをパソコンに持って行って、陰を付けたり、色味を多少調整したりして、タイトルや画像を配置したら表紙デザインの完成です。

組み立てに何時間もかかる立体もあります。最後のパーツを差し込むのに、30分や1時間かかったなんてことも……でも大抵時間のかかったものは失敗作品です。きっとパーツ作成の時点で精密に折れていなかったり、組み立て順が適切でなかったりするところを、諦めきれずいじくり回すので、時間ばかりかかって歪に出来上がるのでしょう。そんなことを一度二度やると要領を得て、比較的短時間ですんわりいくように思います。それでもまだまだなんです！

最近「これが大事」と感じるのは、組み立て順です。適当に組み立ててはいけなことに気づきました。パーツ双方の引っ張り具合のバランスがうまく取れるように組み立てていくと、最後のパーツを入れるときも、比較的うまくいくようです。うまくなるためには、とにかく数こなして、練習あるのみですね！もっときれいに作れるようにがんばります。

これからもよろしくおねがいします。

羽馬有紗(2008年表紙製作者)

天文月報オンラインのIDとパスワード

ID: asj 2005

パスワード: 雑誌コード **vol98** の計 10 文字を入力してください。「雑誌コード」とは印刷版の月報の裏表紙の右下に書かれている「雑誌○○○○○—▲」の○○○○○の部分です。

和田桂一(編集長), 浅井 歩, 今西昌俊, 衣笠健三, 齋藤正雄, 寺田幸功, 戸谷友則, 三好 真, 矢野太平, 吉田直紀
平成 20 年 6 月 20 日 発行人 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 3-8-8 株式会社 国際文献印刷社
定価700円(本体667円) 発行所 〒181-8588 東京都三鷹市大沢 2-21-1 国立天文台内 社団法人 日本天文学会
Tel: 0422-31-1359 (事務所) / 0422-31-5488 (月報) Fax: 0422-31-5487 振替口座 00160-1-13595
日本天文学会のウェブサイト <http://www.asj.or.jp/> 月報編集 e-mail: toukou@geppou.asj.or.jp

©社団法人日本天文学会 2008 年 (本誌掲載記事は無断転載を禁じます)